

めでいかすどる
Médicastre



「白鳥」

鶴岡地区医師会

20年 2月号

鶴岡地区医師会新年会

日 時 平成20年1月18日(金)

場 所 新 茶 屋

鶴岡地区医師会新年会は新茶屋庭園に雪が深々と降る中、多くの来賓の方々、当医師会役員、会員の方々よりお集まりいただき、職員を含め95名の出席の中盛大に開催されました。

新年に相応しい和服姿の福原理事の司会により、中目会長の挨拶、富塚鶴岡市長、本間酒田地区医師会長の祝賀を頂戴し、阿部県議会議長の乾杯で祝宴となりました。

庭園の雪吊り、深々と降る雪景色を見ながらお座敷で雪見酒となり、来賓、役員、会員の方々は杯を交わし、和やかな雰囲気の中で親交が進んで参りました。今年の話は昨年世の中を騒がした「偽造」の話題も多かったようです。

最後は鈴木理事の締め「乾杯」によりお開きとなり、会員の先生方は、新しい情報と情熱の診療に必要な水を求めて次の場所へ移動して行きました。

管理課長 若木 敬一



私のお勧めの店 - その28-

～ スペイン食べある記 - 2- ～

横山 靖

無事ミラノに着いた。ここで入国審査をしたら、ヨーロッパ各国で結ばれているシェンゲン協定により、もうスペインでは入国審査はいらない。乗り継ぎの間ミネラル・ウォーターを買い、チップ用の小銭を作った。ミラノからはボーイング767だった。別の機の乗り換え客を待ったせいか、半分ほど席が埋まったところでしばらく動く気配もない。CAたちは相変わらず乗客とおしゃべりしては大笑いしている。パイロットもコックピットのドアを開けたままおしゃべりしている。離陸時間を過ぎても、おしゃべりは続き、アナウンスもない。まあ、これがラテンの国か・・・、納得しました眠った。

ウトウトしているうち待っていた賑やかな客の一段が乗り込み、やっと機は離陸した。1時間半ほどでバルセロナに着いたが、イタリア人CAはアナウンスでは盛んに、バルチェローナと云っている。確かにceはイタリア語ではチェと読むから、確かにバルチェローナだな・・・とまた納得する。バルセロナの空港に着いたのは現地時間で23時。8時間の時差があるので、日本時間なら翌日の朝7時である。日本を14時に飛び立ってから、実に17時間である。

さあ！いよいよスペイン語である。一年間勉強した成果を出そうと思うが、どうも様子が違う。例えば出口や手荷物受取所など本に書いてある単語とは微妙に違うのである。よく見ると、どの案内板にも3つの単語が書かれている。一番上が初めて見る言葉、真ん中が英語、そして一番下が日本で習っていたスペイン語である。実は一番上にかかっている言葉はカタラン語といい、カタルーニャ地方で話されているスペイン語なのである。一般に標準スペイン語として日本で教えられている言葉はカスティリーリャ語といい、マ

ダリッドやアンダルシア地方で話されている言葉である。さらにスペインにはもう2つ言葉がありガリシア語とバスク語がある。カタラン語とカスティリーリャ語はまだ近い点もあり、スペルは違うが言葉の意味の想像はつく。カタラン語はイタリア語とカスティリーリャ語の中間という感じで、バルセロナは地理的にもそういう位置にある。「こんにちは」は、標準スペイン語であるカスティリーリャ語でブエノス・ディーアス、イタリア語はボン・ジョオールノだが、カタラン語ならボン・ディーアである。ちょうど半分ずつ取ったような感じでしょ。

空港では添乗員とは別にJTBの現地スタッフのTさんが出迎えてくれた。空港から深夜の高速道路を一気に走り20分ほどでホテルに着いた。翌朝は7時に目覚めるがまだ夜が明けていない。8時でもまだ真っ暗である。それでも朝食の時間なので食堂に行く。今回のスペイン旅行の楽しみイベリコ豚の生ハムもその一つだが、もう朝から豚の魅力全開である。おいしい生ハムに加え、サラミ、ハム、チョリソー（ピリ辛サラミ）、ベーコン、ソーセージと山のように盛られている。ハムは肉だけでなく、皮のコラーゲンの部分まで付いている。どれも日本では食べたことがないおいしさである。特にフランスパン（細いバケット）の間に生ハムとチーズ、野菜をはさんだボカディージョというスペイン風のサンドウィッチは絶品であった。スペイン人の朝はコーヒーにミルクを入れたカフェ・コン・レチェを飲むので、さっそくそれを頼みスペイン気分に入る。満足して部屋に戻った頃やっと空が明るくなってきた。

マイペット&マイホビー

- 第51回 -

チェロ

荻原 学

何とか8年目を迎えることができました。私が初めてチェロという楽器を手にとってから・・・

チェロといえば心に響く音、柔らかい音色、おなかの中まで鳴り渡る感覚などと表現されるようですが、私自身はそんなことには全く無頓着のままチェロという楽器を始めたのです。そのいきさつはといえば、子供たちが家内を含めヴァイオリンを習い始めたことがきっかけです。「もしパパが弾くならば大きいチェロだ。子供の頃嫌々ながらもピアノを少し習ったことで音符も読めるし、ちょっとギターもかじったこともあるし、大きさも似ているし・・・」なんてつらつら思っていたのです。たまたま銀座山野楽器に寄ったとき、初心者向けのチェロと弓とケース、そして入門(・・)ビデオ(・・)付のセットが並んでいて、これなら一人でもOKと購入。優雅な独学の時間の始まりです。ビデオを見ながら楽器を手にとると、音は何か出るし、ギターのようにフレットは無いものの少しは指も動くし、児童合唱団に所属していたのでちょっとは音程も分かるし、なんて悦に浸っていたのですが、家族にとっては耐えがたい拷問の時間だったらしく、時を待たずして夢のような独学の時代は終わりを迎えたのです。

そして、連れて行かれたのは、仙台フィルハーモニーのチェロ奏者である山本純先生の所。山本先生は藤島のご出身で山形大学を経て仙台フィルに入団。現在もご活躍されており、お忙しい中を割いて、月一回鶴岡で6~7名の生徒さんに教えてくださっています。習い始めの頃は、チェロのレッスンというよりは哲学の授業か?と見まがうほどで、音を楽しむというにはほど遠い時間

でした。何しろ真面目に音楽に取り組んだ時間は小学生以来で基礎知識に乏しい状態でした。本来クラシックは嫌いではなく、学生時代にはN響の定期演奏会へ足を運んでは至福の昼寝を楽しんだりしていたものですが、実際自分でチェロを演奏するなどとは夢にも思っておらず、音楽に対する姿勢は全くの傍観者でいたのです。そこに現役のプロからのレッスンという、とんでもない時間が設定されてしまい、緊張と忍耐、そして音に対する自分の才能のなさを痛感。家に帰るとため息とストレスの連続でしたが、やはりやさしい音色に誘われたのでしょうか。何とか続いています。むしろ大変だったのは山本先生のほうでしょうか。全くの素人相手に、忍耐は私自身の桁違いでしょうか?感謝しております。練習もそれなりにやっているので、これからもよろしく願いいたします。

そうこうして数年が経ち、子供たちがヴァイオリンを教わっている渡部啓三先生がご指導してくださっている現「鶴岡室内合奏団」に入団させてもらえることができました。渡部先生も鶴岡のご出身で国立音楽大学を経てNHK交響楽団の



ヴィオラ奏者として 33 年間ご活躍され、国立音楽大学教授を勤められた後、月一回東京より来てくださり、NHK庄内文化センター講座「音楽よもやま話」の講師を担当されています。またヴァイオリンとヴィオラの教室を主宰。それと同時に鶴岡室内合奏団のご指導をしてくださっています。初めてアンサンブルに参加させていただいた日、それまで1人でしか楽器を鳴らしたことがなかったのが感じたことはありませんでしたが、共鳴なのではないでしょうか？ブーンという振動が胸に伝わりびっくりしたことを覚えています。アンサンブルの練習も月一度ですが、渡部先生あと山本先生に教わっている生徒さんを主体に、酒田フィルのメンバーや学生オケを経験されてきた方々と総勢約 20 名の団体です。腕には相当開きがあるものの渡部先生が何とかうまくまとめてくださっており、和気あいあいと楽しく行っています。練習会場も最近はおぎわら医院のフロアで夕方 7 時から行っておりますので、ご興味のある方は是非お立ち寄りください。

さて、楽団の活動とはといえば、一昨年と昨年 12 月に鶴岡カトリック教会でチャリティーコンサートを開催させていただきました。一昨年はビデオ係だったのですが、昨年は出演させていただきました。また、昨夏に酒田で行われた「全国アマチュアオーケストラフェスティバル・街かどコンサート」にも出演することができ、アンサンブルの楽しみも膨らんでいます。病膏肓に入るというわけではなく、成り行き上、向後 1 年間の予定で団長になってしまいました。真意は事務方なのですが、団の皆さんが気苦労せずにアンサンブルを楽しんでいただければという、一番下手な団員の役目と心得、精一杯務めたいと思っている所です。

言うに及ばずですが、芸術は奥が深いようです。「中年老い易く、芸成り難し」ですが、アンチエイジングの意味合いも含めて、毎朝コーヒーをすすりながらレッスンに取り組んでいる日々です。



2008 3/22 土

どなたでも参加
できます。
参加費は無料です。

会場：鶴岡市勤労者会館
(鶴岡市泉町)

開場：午後1時30分

知って得する 合併症の知識

講演

●14:00-

「糖尿病と壊疽一肢切断を
防ぐために」

岩内病院 内科部長 竹田 文洋

「腎臓病は予防できるの？」

岩内病院 内科部長 安宅 隆

「糖尿病の眼を守ろう！」

鶴岡病院 院長 鶴岡 隆子

●16:00 閉会



山形県
医師会
糖尿病フォーラム
in
鶴岡

共催：鶴岡地区医師会 TEL:0235-22-0136 / 山形県医師会

表 紙

「白 鳥」

真 柄 三 夫

約 15 年前、赤川（朝日）白鳥親水公園にて撮影したものである。すっきり晴れたあお空が川面に反射して、仲むつましい、スワンペアを美しく表現してくれた。

～ 編 集 後 記 ～

五十嵐 裕

予算編成に入ると必ずでてくるその場限りの医療制度改革（改悪？）が目につき始めました。勤務医過重労働、小児科・産科問題、救急医療問題、それに薬害問題など数えたら限りがありません。

開業医の再診料を引き下げて小児科・産科問題に財源を振り分けるなど、具体的な問題解決法を聞きたいものです。その場限りの取り繕いに過ぎないことは明らかでしょう。問題の根本は医師不足であることは明らかです。私が医学部の学生の頃の定員は 120 人でしたが、いつのまにか医師過剰になるとの見込みで 100 人に削減されました。この見込みを立てた官僚の判断は誤りであったのは明らかなのに、医師は足りているが偏在が問題だなどと認めていません。また朝日新聞の社説に再診料引き下げの断念を医師の既得権を医師会が守ったなどと偏った問題のとらえ方をしています、いつのまにか抵抗勢力になっているようです。このように開業医およびそれを束ねる医師会がヒールとなりマスコミがたたいています、予算削減が全てに優先する改革などはありませんと思うのですが。開業医は学校医、産業医、福祉施設の嘱託医、在宅医療、すなわち地域の公衆衛生分野や介護、福祉医療、地域医療を担っていることをもっとアピールすべきと思います。病院勤務医時代はこのようなことは意識していませんでしたし、実際知りませんでした。

病院の医師不足はさらに悪化する気配です。来期から荘内病院の循環器科の大学からの派遣医がなくなる可能性があります。昨年医師会が病院勤務医の過重労働の状況把握のためのヒアリングがあったと思いますが、どのような対策がとられたかは定かではありません。単なるガス抜きであったのかは知りませんが、医師会ができることで過重労働の軽減に役立つ唯一のことは平日夜間診療所を開設することだと思います。国は開業医の時間外診療を広めるつもりようですが、時間外診療を個々の開業医が行うのは人的問題（事務職員、看護師の確保）や院外処方の問題など無駄が多すぎると思います。また、全国各地で医師会が主導して夜間診療所を開けばその努力をアピールできるのではないのでしょうか。とりあえず鶴岡地域で始めれば多少なりとも地域救急医療に貢献でき病院との関係もうまく行くのではないのでしょうか。

編集委員：中村秀幸・伊藤末志・斎藤憲康・五十嵐裕・福原晶子・岡田恒人

発行所：社団法人鶴岡地区医師会 山形県鶴岡市馬場町 1- 34

TEL 0235- 22- 0136 FAX 0235- 25- 0772 E-mail tsurumed@mwnet.or.jp

URL <http://www.mwnet.or.jp/~tsurumed/>

印刷所：富士印刷株式会社 鶴岡市美咲町 27- 1 TEL 22- 0936(代)